

いちのみやの芸術文化



三岸節子 アルカディアの赤い屋根(ガチスにて) 1988

- 特集「三岸節子 94年の歩み」
- 加入団体の紹介
- 第67回一宮市美術展入賞者
- これからの催し
- 文化講演会（報告）

2009.12

第11号

一宮市芸術文化協会

一宮市には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

三岸節子 94年の歩み

～生きた。描いた。愛した。この言葉とともに～



誕生

三岸節子(本名・節)は1905(明治38)年に中島郡小信中島村(のちに起町、現在の一宮市)に父吉田永三郎、母きくの6番目の子として生まれました。大地主で毛織物工場を経営するなど恵まれた家庭に育ちますが、1920(大正9)年に恐慌のあおりを受け家が破産します。しかし逆境のなか画家を志し、淑徳高等女学校卒業後単身で上



①

京しませ。近代洋画の巨匠である岡田三郎助に

師事し、後に女子美術学校(現女子美術大学)に編入しますが、二科会や春陽会に所属する新進気鋭の画家たちとの交流をとおして独自の表現を求めます。

三岸好太郎との出会いと別れ

女子美術学校在学中に後に夫となる三岸好太郎と出会い、1924年(大正13)年に結婚します。翌年には春陽会の第3回展に《自画像》(①)他3点を初出品し、女性として同会初の入選という快挙を果たし脚光を浴びますが、1934(昭和9)年に好太郎が旅行先の名古屋で倒れ31歳で突然亡くなります。

僅か10年の結婚生活となりましたが、「芸

術家としての生き方を教えられた」と後にその思いを回想しています。

新たな出発

夫の死後、3人の子供を育てながら画家として活動することを決意します。室内の情景やアトリエにある品々を題材として描いた《室内》(②)などが評価され、新制作派協会に会員として迎えられ注目されます。時代が第二次世界大戦へと突き進む中、疎開をせず東京鷲宮のアトリエで描き続け、



②

1945(昭和20)年終戦直後の日本で最初となる個展を銀座・日動画廊で開きます。ついで1947(昭和22)年には女流画家協会の

創立に参加するなど精力的に活動します。また、別居結婚として画家の菅野圭介と再婚し話題



③

になります。5年で破綻を迎えます。

1950年代にはいると、物の形を黒や渋い色ではっきりと描いた《アンダーソンの壺と小鳥》(③)など大きく作風を変えます。

1951(昭和26)年に《金魚》が文部省買い上げとなり、《静物(梔子)》で芸術選奨文部大臣賞を受賞します。その後は、海外にも招待作家として出品し活躍の場を広げていきます。

・憧れの地 ヨーロッパ……

1954(昭和29)年49歳の節子は、念願であったヨーロッパの地を訪れます。この経験をきっかけに帰国後、日本古来の美に「回帰」し「摺輪」を題材に描きます。1957(昭和32)年には軽井沢で独居し、山に飛ぶ鳥に自分を重ねた《飛ぶ鳥》の連作を、1964(昭和39)年、神奈川県大磯にアトリエを移して

からは自然を謳歌した《太陽讃歌》の連作など各テーマを追求してゆきます。

1968(昭和43)年63歳の時、長男黄太郎一家とともに南仏カーニユにアトリエを構え、ヨーロッパ各地を歩き訪ねます。その中でもイタリアのヴェネチアに惹かれ、運河を進むゴンドラから眺めた古都の美しさを《細い運河》(④)に描いています。

1974(昭和49)年にはブルゴーニュにあるヴェロン村にアトリエを移し、スペインのアンダルシア地方やイタリアのシチリア半島まで足を伸ばし、1989(平成元)



④

※表紙の作品が描かれたところ

・大磯での制作……

1989年に帰国し、再び大磯のアトリエで制作に励みます。自然とものが語り合うような《作品Ⅰ》《作品Ⅱ》《作品Ⅲ》は、当美術館のために描かれ1998(平成10)年の開館とともに收藏されました。また、



⑤

最晩年の《さいたさいたさくらがさいた》(⑤)の作品は、花をテーマとした集大成の代表作でもあります。

1999(平成11)年、急性循環不

全により94年の生涯を閉じますが、常に新しいテーマを見つけ、取り組み続けた画家三岸節子の歩みは美術館に作品として遺されています。

(一宮市三岸節子記念美術館 学芸員 堤 祐子)

「三岸節子 旅とエッセイ

— 異邦人が見た欧州風景 —

開催中の常設展

会期 ▼平成22年1月24日⑤まで

その見どころ！楽しみどころ！

只今開催中の常設展では、海外で制作された作品を中心に展示しています。ヨーロッパの国ごとに作品を眺めると、まるで節子さんと一緒に旅をしているかのように感じられます。また、そのころ書かれたエッセイや日記からは、画家が何を思い描いていたかを読み解くことが出来ます。

私たちの絵の具箱の中には、赤・青・黄の三原色と白・黒の五つの絵の具があるだけです。私たちは既製の絵の具でなく、三原色から生み出した色で絵を描いています。

「絵とは絵の具で描くのではない。色で描くものだ。絵画は色と形で表現する芸術だから自分の色を大切に。そして、形をよく見るように。」と鈴木田先生に叱咤激励(?)されながら、制作に励んでいます。活動日は不定期ですが、年間で約30回。主に三岸節子記念美術館の実習展示室での制作のほか、戸外でのスケッチもしています。

美術館の「絵ごころ講座」から始まった教室は今年で10年になります。スタート時のメンバーから新入会のメンバーまで、それぞれ目指すものは違いますが、年1回の作品展に向けて真剣に絵筆をふるっています。とはいえ素人の集まりですの

で、新しい絵に挑戦すると、先生のアドバイスをすっかり忘れてしまい逆戻りすることもしばしばです。そんな時にも先生は、「また忘れたネー」と笑いながら、辛抱強く指導して下さいます。この真剣さとユーモアの入り混じった楽しい雰囲気、これからも大切にしていきたいです。



◀ 私たちの作品展「12人展」

【問合せ先】浅野 由美子 ☎61-4529

紅韻会は、今より35年程前に設立され、早速一言謡曲同好会に加入させていただきました。春と秋の発表会には必ず参加し、仕舞、謡曲の披露をして参りました。

能は、一般に難しいとか肩が凝りそう等の意見もありますが、腹式呼吸での発声は健康上とても良く、長命の方が多いようです。

能楽は、700年の歴史を持つ伝統芸能で世阿弥父子によって足利時代に大成されました。世阿弥の説いた「初心に帰れ」、「秘すれば花なり」等の教訓に従い紅韻会の会員は和をもって日々楽しく稽古に励んでいます。社中での催事は謡初め、ゆかた会、忘年独吟会、そして5年毎の記念大会を尾西市民会館で開催します。その他国際交流の行事にも参加して日本の文化を披露したり、小学校の授業の一端に参加させていただき、児童の皆さんに仕舞を教えたり、能面や扇のお話をしたりし

ています。

師家の大槻文藏先生の会にも希望者は参加できます。

紅韻会は、講師宅の稽古場で毎週月、木、土曜日の午前10時から午後4時まで楽しくお稽古をしていますので、是非一度お気軽に見学にいらしてください。



◀ 稽古場での練習風景

【問合せ先】渡辺 節子 ☎62-5281

濃尾吟詠会は、昭和45年木曾川北公民館で産声を上げ、幾多の変遷もありましたがまもなく40歳を迎えます。“人の和”をモットーとし楽しく吟力の向上に励んでいます。

教室は週1回を原則とし、そのほか地域の各種行事には率先して参加し友好に努めています。講師は社団法人日本詩吟学院岳風会認可の正師範・由田岳梢先生です。友好会は県内外にたくさんあります。

詩吟は、腹式呼吸により大声を出すことにより、多くの新鮮な空気を吸い込みます。また有酸素運動効果があり老化防止、ストレス解消に良いと言われます。若い人からお年寄りまで気楽に参加できて、高齢化社会の進む中で生涯学習に最適です。そして詩に親しむことにより人物（作者）とその歴史を学ぶようになり、更には多くの人々と接し、

種々習得することが出来ます。真の心の豊かさとお心の安らぎを求める人にお勧めします。

1人でも多くの友達を求めています。気軽にご連絡ください。お持ちしています。

濃尾吟詠会会詩 国泰心田 作

岳風正脈詩魂全 吟詠堂々衝九天
只尚育成真国土 蘇溪學舎不伝伝



◀ H21年度
木曾川公民館芸能祭にて

【問合せ先】 墨 利春 ☎87-2222

演奏会はたのしい！

一宮市民吹奏楽団は、吹奏楽が大好きな学生、社会人が集い昭和49年に発足しました。以来、毎週の練習を積み重ね、春は「レインボーコンサート」冬は「定期演奏会」を開催しております。過日、第34回定期演奏会を終えたところです。

吹奏楽の楽しいところは、管楽器特有の美しいハーモニーと流れるメロディー、ウキウキするリズムが演奏者はもちろん聴衆も魅了し楽しめることにあると思います。ここで、私たちの演奏会を紹介しましょう。

マーチで始まるプログラムの前半は、自分たちの技量を問う曲目です。マーチの軽快なテンポが、緊張をほぐしてくれます。練習で苦労したところや、聴かせどころでは、自然と気持ちが入り、達成感や満足感にひたりつつ前半の演奏が終わります。

後半は、お客さんと一緒に楽しむステージです。ポップス、歌謡曲、アニメ曲など、子どもからお

年寄りまで楽しめるよう工夫しています。また、ステップを踏んだり、お面をかぶったり演出にも趣向を凝らし、お客さんと共に楽しんでいます。最後の曲が終わり拍手に呼応して起立すると、すごい拍手です。これが、練習の成果が実った瞬間です。

この様な、私たちの演奏活動が、市民文化発展に少しでも貢献できていれば幸いです。「風香る早春に、またお会いしましょう。」



◀ 練習の成果が実った瞬間
指揮者 松井公男

【問合せ先】 平賀 喜紀 ☎44-9987

第67回一宮市美術展



工芸部門解説

11月12日(木)から15日(日)まで、一宮スポーツ文化センターで「第67回一宮市美術展」が開催されました。

市内や近隣市町村を中心に、県外からも多数作品が寄せられ、出品者は625名で、審査の結果、入賞となった175点をはじめ、620作品が展示されました。

期間中は、約6,200人の方が会場を訪れ、作者の熱意・エネルギーを感じさせる多数の作品を熱心に鑑賞されました。

各部門で入賞された方は、次のとおりです。なお、同一賞内での掲載順は順不同です。(敬称略)

日本画

審査員

星野哲弘
河村明美

市長賞

佐藤仁美

教育委員会賞

青山トミ工

美術展賞

藤塚章
甲賀春美

水谷喜久子

奨励賞

鈴木賀壽子
鶴飼容子
松本君子
山田勝利
柴田智美

入選

37点

洋画

審査員

長谷川 侑
斎藤 吾朗

岩田 哲夫
高田 悟

浅井 欣哉
三輪 清弘

市長賞

岩田正治

教育委員会賞

神谷久子
吉川京介

美術展賞

山際麻里江
岩田明美
水野 肇

山下久子
安藤桂子
木村周子

大野紀史
近藤博通
五藤寿子

伊藤睦実
岡田優子
竹内保彦

柴田順子
井上美恵子
市橋昭二

藤井 忍
大島裕子
合田寛子

奨励賞

小倉義夫
祖父江和子
石神葉子
山崎正春

磯部静子
酒井美江
金田道子
馬場越子

宮地恭子
石原孝一
中田千代子
加藤 伸

石黒三雄
榎谷咲子
丹慶哲宏
小倉照江

田仲富美子
渡辺啓子
成瀬弘子
伊藤 毅

江口和夫
江崎武夫

橋本 進

入選 175点



書部門解説

彫刻・立体

審査員

森 克彦
櫻井 真理

市長賞

杉野典嗣

教育委員会賞

横田千明

美術展賞

水谷三四士
白井秀樹

奨励賞

長瀬正良
奥村圭衣子

入選 21点

工芸

審査員 亀井勝

林節子

市長賞

石田元子

教育委員会賞

加藤陽子

美術展賞

倉田芳美

小河敦子

田中彰子

奨励賞

山田早苗

伊藤晴康

加藤伸

入選 48点

審査員

源安孝
森昭夫

市長賞

堀場靖世

教育委員会賞

木村綾香

美術展賞

加藤小恵梨

福田有紀

福田有紀

入選 23点

デザイン

美術展賞

酒井光華

安藤静歩

牧恵清

長崎成秀

平野恭子

井上嘉蓮

春日井ゆかり

永田張羽

岩田佳川

浅井妍翠

山口崑華

鈴木鶴扇

西村松花

岩田展穂

加藤瑞頭

戸本有荷

安藤海花

古川白萩

尾中杉得

森永沙鷗

吉田禎常

伊神薪水

佐合華婉

渡辺湖風

林美秀

松居玉華

今枝節峰

野田江泉

入選 224点

小林進

小島華扇

高松彩月

審査員

齋場ひさとし

蜂須賀秀紀

夫馬勲

林三平

市長賞

田中久雄

教育委員会賞

佐野ルミ子

美術展賞

寺澤英治

中村薫

大西正信

市川勝朗

橋本秀子

長谷川蕪江

堀場英雄

安藤治仁

村瀬範恭

大田茂男

宮崎久仁子

青木尚子

大矢真理子

入選 92点

写真

高松彩月

千田陸末

安藤正一

中山哲也

春日井義三

田端勉

吉田英昭

内田昌臣

小原勇二

長谷川隆光

高崎英美

脇田和彦



デザイン部門解説

書

審査員

樽本樹邨

種村山童

武山翠屋

木戸竹葉

林大樹

伊藤玄圃

近藤芳玉

依田鶴歩

宮代翠霄

堀場浅翠

教育委員会賞

五藤梅艶

野杵怜光

奨励賞

川辺舟楫

戸谷嘉恵

中村彩香

小松月泉

今井青翠

山田順子

鶴飼梨英

大塚雅泉

大竹澄青

脇田玉波

神田鴻都

大橋溪煙

蟹江紅鳳

入選 224点

小林進

小島華扇

高松彩月

審査員

齋場ひさとし

蜂須賀秀紀

夫馬勲

林三平

市長賞

田中久雄

教育委員会賞

佐野ルミ子

美術展賞

寺澤英治

中村薫

大西正信

市川勝朗

橋本秀子

長谷川蕪江

堀場英雄

安藤治仁

村瀬範恭

大田茂男

宮崎久仁子

青木尚子

大矢真理子

入選 92点

文化情報



「高千穂峽」 水墨画 丹羽桃慶

《市および市内公共施設の催し》

一宮市博物館

☎(46)3215

企画展「くらしの道具〜今と昔」

日時 1月9日(土)〜2月28日(日)

午前9時30分〜午後5時
(入館は午後4時30分まで、
月曜休館、月曜日が休日の
場合は翌日休館以下同じ)
内容 山間部や海沿いの地域で使
われていた生活道具を展示
し、自然環境の違いによる
道具の比較をします。

観覧料 一般 200円

高大生 100円
小中生 50円
市内小中学生・65歳以上無
料(以下同じ)

講座「尾張平野を語る14」

日時 2月28日(日)・3月7日(日)・
14日(日)

午後1時30分〜3時
内容 尾張で展開された本草学や
洋学、国学、絵画などから
地域の歴史の一端を紹介し
ます。

定員 各回100名(当日整理券
を配付)

「民俗芸能公演」

日時 3月27日(土)

午後1時30分〜3時

内容 一宮市の無形文化財に指定
されている「民俗芸能」の
公演

定員 100名

三岸節子記念美術館

☎(63)2892

常設展「三岸節子 白の世界〜愛
する色〜」

日時 1月26日(火)〜4月4日(日)

午前9時〜午後5時(入館
は午後4時30分まで、月曜
休館、月曜日が休日の場合
は翌日休館)

内容 本当は真っ白な絵ばかりを
描きたいくらいと語るほど
好んだ白色。時代ごとに作
品をたどり、その白を通し
て画家の思いを探ります。

観覧料 一般 320円

高大生 210円
小中生 110円
市内小中学生・65歳以上
無料

美術館講座「美術の学校Ⅲ」

日時 2・3月中(全3回)

各回 午後2時〜3時30分
内容 各分野について様々な視点
から楽しく、そしてわかり
やすくお話をさせていただきます。

受講料 無料

申込み 往復ハガキに必要事項を
記入の上、美術館まで申込
み。締め切りは各回の7日
前まで。(詳しくはお問い
合わせ下さい。)

美術館実技講座

日時 2月中(全5回)

午前10時〜正午
内容 初心者を対象にした実技講
座

定員 16名

受講料 有料

申込み 応募期間中に美術館へ直
接、またはFAX、往復は
がきにて申込み。(詳しく
は市広報でお知らせしま
す。)

尾西歴史民俗資料館

☎(62)9711

特別展「鶴飼吉左衛門・幸吉とそ
の周辺」

日時 ● 1月30日(土)～3月22日(月)

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで、3月22日を除く月曜日、2月12日は休館)

内容 ● 一宮市小信中島出身で、幕末勤皇の志士として活躍した水戸藩士鶴飼吉左衛門と幸吉の父子を紹介します。

観覧料 ● 無料

「懐かしのSPレコードコンサート」

日時 ● 3月27日(土)

午後1時30分～3時30分

内容 ● SPレコードの名曲を蓄音機で鑑賞します。

入場料 ● 無料

青年の家

☎(73)2400

「ヤングフェスティバル」

日時 ● 3月7日(日)

午前10時～午後3時

内容 ● 青年グループによる発表、展示、交流など市民とのふれあいを目的に開催

参加料 ● 無料(内容により有料)

玉堂記念木曾川図書館

☎(84)2346

世界の名画(玉堂記念木曾川図書館所蔵複製絵画)展

日時 ● 1月26日(火)～30日(土)

午前10時～午後6時

入場料 ● 無料

講演会「イタリア・ルネサンスの名画を読むーダ・ヴィンチの『モナ・リザ』を中心にー」

日時 ● 1月30日(土)

午後2時～

入場料 ● 無料

定員 ● 80名

一宮市民会館

☎(71)2021

「秋川雅史コンサートツアー」

日時 ● 1月30日(土)

午後4時～ 開場は30分前

入場料 ● 5,500円

(全席指定・税込み、以下同じ) 未就学児入場不可

「美輪明宏 音楽会〈愛〉」

日時 ● 2月21日(日)

午後6時～ 開場は30分前

入場料 ● 7,500円

「押尾コータロー アコースティックギター コンサート」

日時 ● 2月27日(土)

午後6時～ 開場は30分前

入場料 ● 5,000円

一宮市尾西市民会館

☎(62)8222

「はじめての歌舞伎 ワークショップ公演」

日時 ● 2月14日(日)

午後2時～ 開場は30分前

入場料 ● 2,000円(全席指定・税込み、以下同じ)

未就学児入場不可

「寺井尚子ジャズヴァイオリンコンサート」

日時 ● 3月6日(土)

午後4時～ 開場は30分前

入場料 ● 4,000円

未就学児入場不可

一宮地域文化広場

☎(51)2180

「天体観望会」

日時 ● 1月15日(金)・16日(土)

オリオン座大星雲(M42) おうし座のかに星雲(M1)

2月12日(金)・13日(土)

プレアデス星団(M45)

オリオン座大星雲(M42)

3月12日(金)・13日(土)

かに座のプレセペ星団(M44)

オリオン座大星雲(M42)

申込み ● 詳細はお問い合わせ下さい。

入場料 ● 無料

市生涯学習課

☎(84)0012

「女性のつどい」

日時 ● 2月15日(月)

午後1時15分～3時45分

会場 ● 一宮市民会館

講師 ● 女優 正司 歌江

入場料 ● 無料



『狂俳月例会』

【問合せ先】一宮狂俳壇連盟

☎72-176900

日時▼1月9日(土)・2月13日(土)・

3月13日(土) 午後1時～

会場▼葉栗公民館

内容▼各自10句持参、互選により

優秀作を記録に残します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

『市民短歌教室』

【問合せ先】真清短歌会【以下同じ】

☎72-166006

日時▼1月10日(日)・2月14日(日)・

3月14日(日) 午後1時～

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼真清短歌会委員により実作

指導します。(初心者歓迎)

参加料▼無料
申込み▼当日直接会場

『新年短歌大会』

日時▼1月24日(日) 午後1時～

会場▼一宮スポーツ文化センター

対象▼どなたでも(大会に先立ち

詠歌を提出)

参加料▼500円

申込み▼当日直接会場

『市民俳句教室』

【問合せ先】一宮市民俳句教室

☎73-15504

日時▼1月24日(日)・2月28日(日)・

3月28日(日) 午後1時～

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼当季雑詠3句を一宮市民俳

句教室委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

『市民川柳教室』

【問合せ先】一宮川柳社

☎45-18045

日時▼1月24日(日)・2月28日(日)・

3月28日(日) 午後1時～

会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼自由吟および課題吟を一宮
川柳社委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

『平成21年度支部講演会』

【問合せ先】(社)中部日本書道協会

一宮支部

☎73-13513

日時▼2月7日(日) 午後4時～

会場▼一宮スポーツ文化センター

講師▼武山 翠屋 先生

演題▼「良寛さまに魅せられて」

入場料▼無料(一般聴講歓迎)

『創立15周年記念日本報道写真連盟 第15回真清支部展』

【問合せ先】一宮写真協会 日本報道写真連盟

☎61-0814

日時▼3月17日(水)～22日(月)

午前10時～午後6時(22日

は午後4時まで)

会場▼ギャラリーるぼ

内容▼写真の展覧会

入場料▼無料

≡『加入団体の催し』欄に情報を掲載しませんか？≡

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体の活動情報を募集します。

掲載を希望される団体は、発行月3・6・9・12月の前月1日までに、下記の必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

必要事項 ①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時 ⑤会場
⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他必要事項

提出先 〒493-8511 一宮市芸術文化協会事務局(住所不要)
または FAX 0586-86-1809

愛知県文化協会連合会の催し（報告）

【愛知県文連美術展】

9月29日(火)～10月4日(日)、愛知県美術館8階ギャラリーを会場に文化協会相互の連携のもと、愛知県的美術文化の普及・振興と次代を担う有為な新人の発掘を目的に第34回愛知県文連美術展（日本画・洋画・工芸・彫塑・書）が開催されました。県下より多数の作品が応募され、373作品が入賞・入選に輝きました。

本協会からも日本画の部今枝昭一さん、洋画の部小倉照江さん、小倉義夫さん、瀧 照子さん、平林 緑さん、米津美代子さんが入選されました。



【愛知県民茶会（尾張部）】

11月8日(日)、知多市勤労文化会館において、県民茶会が行われました。今年度は、本協会からの設席はありませんでしたが、多数の方が参加され、温かいおもてなしをいただきました。当日は約2000人の参加者があり、設席された5つの文化協会の皆様にとつては、大変忙しい1日ではなかったかと思いますが、お陰様でお茶を通して秋の1日をゆっくりと堪能させていただき、大変清々しい気持ちで、帰路に着くことができました。



【愛知県文連西尾張部芸能大会】

12月6日(日)、飛島村中央公民館



剣詩舞道 柳翠会の皆さん

において、西尾張地区12市町村の文化協会の代表が一堂に会して芸能大会が行われました。会場では和気藹々の雰囲気の中にも日本舞踊・バレエ・大正琴・朗読と様々な演目が用意され、気合の入った発表が次々に行われ、それぞれの団体に惜しみのない拍手が送られていました。

当協会からも代表として、剣詩舞道柳翠会の皆さんが出演し、詩舞を披露いたしました。日頃の練習の成果を思う存分に発揮され、15分間の出演時間が非常に短く感じるほどの熱演に会場からは盛大な拍手が送られていました。

お詫びのご案内

10月17日(土)に「いちのみや文芸2009」第38集を刊行しました。随筆・随想、現代詩、漢詩、短歌、俳句、川柳、狂俳の7部門合わせて371名の方から寄せられた2831作品を掲載し、1冊800円で、一宮市役所、木曾川庁舎（一宮市教育委員会生涯学習課内）で販売しています。

是非一度お読みください。なお、ここで、既にご購入されました方に、お詫びがございます。印刷の一部に不具合が発見されました。お持ちの文芸誌に印刷不備のある方につきましては、新品と交換させていただきますので、お手数をお掛けしますが、事務局（☎84-0013）までご連絡いただけますようお願いいたします。大変ご迷惑をお掛けいたしました。



文化講演会

私の取材ノートから

その時歴史が動いた

フリーアナウンサー 松平定知さん



10月17日(土)、一宮市尾西市民会館にて、文化講演会が開催されました。

テレビ等で活躍中のフリーアナウンサー松平定知さんをお招きし、「私の取材ノートからその時歴史が動いた」と題してご講演いただきました。

【講演内容抜粋】

豊臣秀吉は晩年になって側室に子どもができません。これが秀頼なわけです。自分が死んだ後、どうやったら秀頼を中心に政権を長く続かせていくことができ、それを彼はずっと考えておりまして、五大老五奉行制と言っ

団指導体制を敷く事になるわけですね。五大老というのは、要

するに豊臣株式会社、この創業者兼社長が秀吉、副社長が徳川家康です。筆頭専務が前田利家で、普通の専務が毛利輝元。それから常務が小早川隆景で平取締役が宇喜多秀家です。その五大老とこの下に五奉行と言っ

るわけですね。この五奉行の中に石田三成がいるわけです。その五大老の小早川隆景が早目に死んでしましまして、その後

に五奉行に入ったのが上杉景勝であるわけです。それから豊臣政権を運営していく上で、大変大事な資金源が佐渡の金山で、その佐渡の金山の総奉行に任命したのが、兼統だったわけです。つまり景勝や兼統のこの主従とい

うのは、豊臣政権の寸毫な地位につく事になり、豊臣政権があ

るうちは大変わがよの春を謳歌したわけでございます。

ところが1598年に秀吉が死んで2年たって、家康と三成とが戦って、いわゆる関ヶ原の決戦と言っ

たところがあるわけでございます。この関ヶ原の戦いは徳川と豊臣との戦いという風に思

っている向きもありますが、豊臣家の家臣の勢力争いというのが、関ヶ原の戦いの実態でございます。その豊臣政権の絶対的権力を持つ副社長の家康と五大老の下に位置する五奉行の中の

実力者の石田三成との戦い、これが関ヶ原の戦いだ

とご理解頂ければと思

います。この戦いのご承知の通り家康の東軍が勝つて、石田三成は敗れ去るわけ

でございます。家康の天下になると、秀吉の政権下の五大老の景勝と総奉行であった兼統は、家康にとっ

てうさんくさい大将になるわけ

です。それで、家康は彼にいちやもんをつけ景勝の元に送ったわけです。それを見た景勝は激怒し兼統は景勝の意を汲んで返事を書く。これは当時の天下人の家康であっても、言うべきことは言うという兼統の直言力の差異たるものであります。これを読んだ家康は激怒し、経済制裁を施しました。兼統と景勝は、自助努力によりその経済制裁に耐え上杉家を続けさせたことは事実でございます。この後兼統の妻お船の方とはたらいで、自分の子どもを家康の部下としてもいい本多家へ嫁がせて、何とか直江家、上杉家と徳川家とを仲良くさせる方策をとるわけです。このこともありまして、家康の息子の秀忠の時、徳川との和解ができてまして、1614年大阪冬の陣の時

【題字】 翠山武屋
【編集・発行】 一宮市芸術文化協会

【連絡先】 一宮市芸術文化協会事務局（市教育委員会生涯学習課内）
〒493-8511 愛知県一宮市木曾川町内割田一の通り27番地
TEL 0586-84-0013 / FAX 0586-86-1809